©岡山県「ももっち」

学力向上担当者通信　NO.14　　岡山県教育庁義務教育課　令和4年11月25日

生徒の英語力向上のために 授業を英語で行いましょう！

今号では、「令和3年度英語教育実施状況調査」（文部科学省）の結果を踏まえ、「英語科の授業を英語で行う」際のポイントとその具体例を紹介します。

学習指導要領に示された内容

参考:「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　外国語編」P.86

エ　生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。

- 生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保する。
- 授業全体を英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」とする。
- 生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにする。

岡山県（岡山市を除く。）の現状

©岡山県「うらっち」

「授業における英語担当教師の英語使用状況（中学校）」

	発話をおおむね英語で行っている教師の割合(50%程度以上～)
岡山県(R3)	64.9%（R1:72.6%）
全国(R3)	73.4%

☞ 授業改善のヒント

本県は一昨年度と比べても、今年度の全国平均と比べても、教員の英語による発話の割合が低いことが分かります。

その理由の一つに「英語だけで授業をしてしまうと、理解できない生徒がいる」ことが考えられます。その際に、すぐに日本語に切り替えるのではなく、単語の繰り返しや言い換え等の工夫により、生徒が英語に触れる機会を保障する意識改革が必要です。

生徒の理解を助ける工夫例①　説明や発問などを生徒の分かる単語で話し掛ける。

教室内にある落とし物が誰のものかを質問する場面を設定（生徒の文房具を借りて）

There are some nameless stationery on the desk. They have no name.
Whose eraser is this?（消しゴムを示しながら）

（no name … 名前がないんだな。Whoseって何だろう･･･?）

（Whoseを理解していない生徒が多いなあ。）
Whose eraser is this?　It's not mine.
Is it yours?　（＊状況を見て Is it your eraser?）

（だれのって聞いているのかな。）
No. It's Takashi's eraser.

生徒の理解を助ける工夫例②　繰り返したり、具体的な例を提示したりする。

教室で留学生と話をする場面を設定（アイスクリームの話題）

I like ice cream very much. Do you like ice cream ?

Yes, I do.

What flavor of ice cream do you like?

(flavor?)･･･

What flavor do you like?
I like vanilla and green tea.　How about you?

（好きな味を聞いているのかな。）
Vanilla and chocolate.

Oh, good. Which do you like better?　（＊状況を見て Is vanilla No.1?）

現在、小学校における外国語科の授業では、児童ができるだけ「英語に触れる機会」を確保し、実際のコミュニケーション場面で英語を話すことに慣れさせるよう、教員が積極的に英語を使おうとしています。

必要に応じて補助的に日本語を用いることも考えられますが、教員自身がコミュニケーションの手段として英語を使う姿勢と態度を示すことで、児童生徒の英語使用を促し、英語力向上に繋げていきましょう。